

国土造りプロジェクト構想 6

～安全・快適で豊かな国土造りのために～

【中川運河水辺地区再生構想】

～静謐な水辺空間を持つ気品と賑わいの新基軸に～



2022年3月

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC)
国土・未来プロジェクト研究会

1. 中川運河の沿革と現状

(1) 中川運河⇒名古屋駅と名古屋港を結ぶ広大な水辺（現状）

名古屋経済発展を支えた
中川運河の水運利用は衰退

中川運河(全長8.2km)の広大水面は
名古屋駅～名古屋港を直線で結び
地域の顔になる魅力的な立地

現在の利用
水辺や倉庫等の
一部での文化的利用

閘門で締切られ
上流の運河水面は安定

至名古屋港

名古屋駅

名古屋城

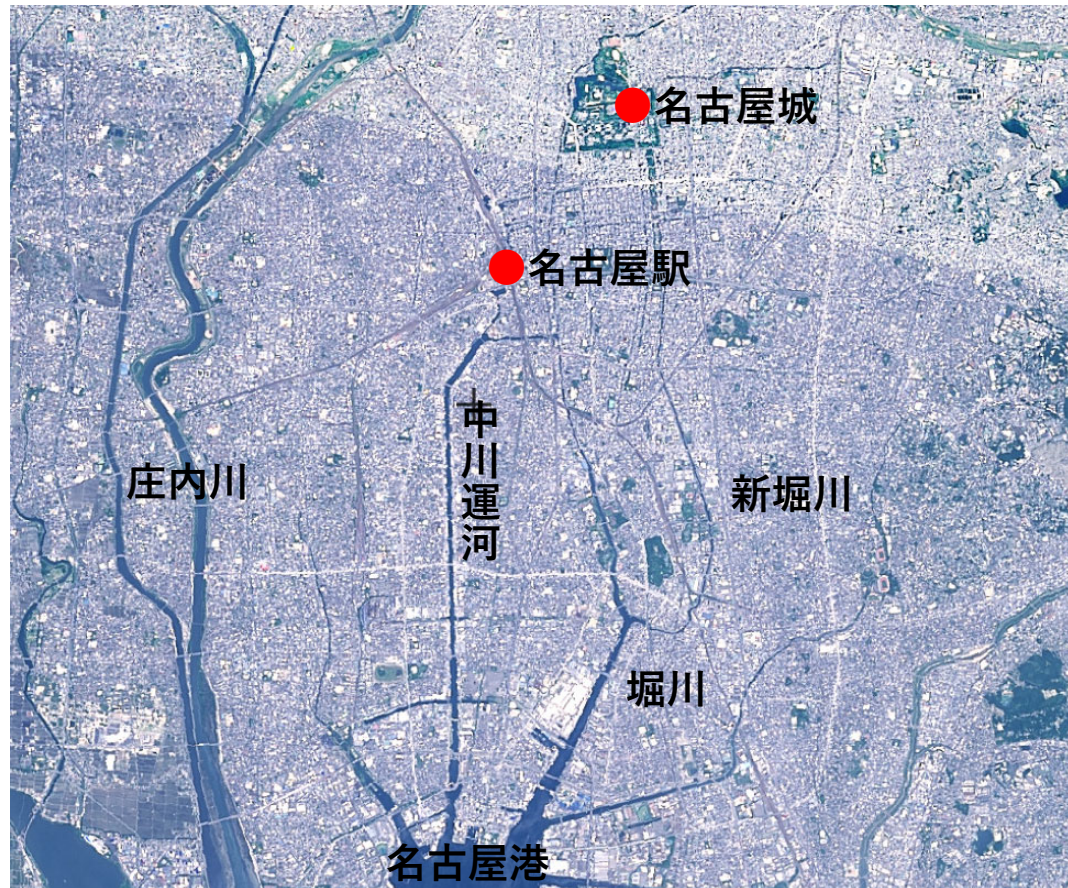
中川運河

国道154号

2. 中川運河ならびに周辺利用の課題

(1) 運河全景

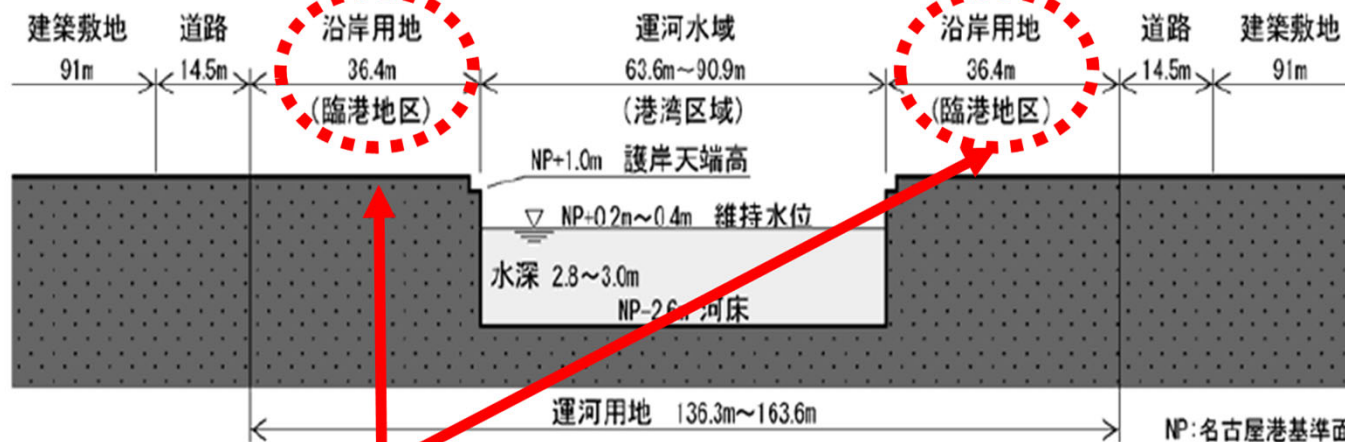
- ・ **名古屋市街地には水に親しむ空間が限られている**
- ・ 名古屋駅を降りるとビジネスビルが立ち並ぶのみ
⇒ **大都市圏に隣接する中川運河の魅力的水辺空間を親しむ環境・文化が育まれていない**



2. 中川運河ならびに周辺利用の課題

(2) 水辺地区 ②沿岸から隔離された水面域

- 水辺との触れ合い
- 雄大な眺望を楽しむ空間の整備が進んでいない



臨港地区：港湾利用が前提、一部「にぎわい施設」を誘致している

2. 中川運河ならびに周辺利用の課題

(3) 周辺地区 運河周辺に拠点地区が点在



ささしまライブ24地区
(出典：名古屋市HP)



ガーデンふ頭
(名古屋港水族館210万人/年)
(シートレインランド 63万人/年)
(出典_写真：名古屋港管理組合HP)
(出典_来場者：名古屋市観光客・宿泊客動向調査)



レゴランド (金城ふ頭)
(目標値200万人/年) (出典：レゴランドHP)



出典：「中川運河再生計画」(位置図)



松重閘門 (出典：名古屋市HP)
(現在は水路閉鎖・堀川との結節点)



キャナルリゾート
(出典：<http://canalresort.jp/>)



みなとアクルス
(LaLaport 約1000万人/年)
(出典：みなとアクルス施設案内リーフレット (2018.1))
(来場者：ららぽーと名古屋みなとアクルスHP掲載値より試算)

3. 国内外の再開発・再生事例

(1) 旧運河地区再生 海外事例：地域と融合した運河再生

沿岸空間の開放



オランダ・アムステルダム

衰退した倉庫街を歴史・文化都市に再生 ～水辺アクセスの改善～



イギリス・リーズ エアー川



ドイツ・ベルリン ホルツマルクト



ドイツ・リューベック トラヴェ川

提供：三井不動産(株) (左上下)、水辺デザインの多様性：JAPIC 川口英俊 (右上下)

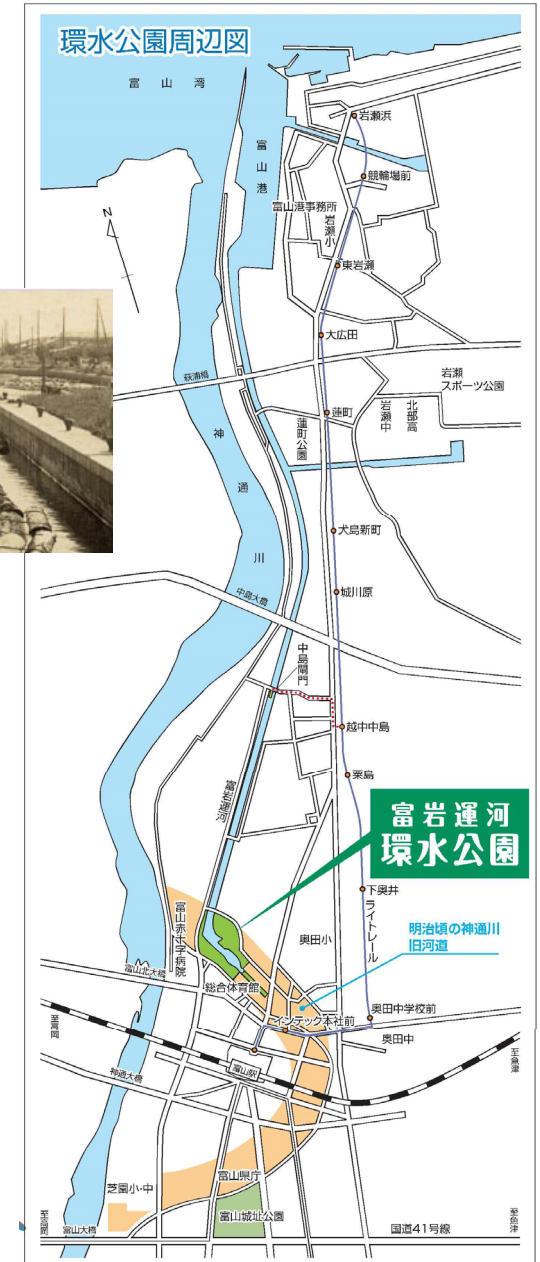
3. 国内外の再開発・再生事例

(2) 富岩運河の再生 国内事例：市民の憩いの場へ

舟運の役割を終えたどぶ川が
市民の憩いの場に変遷



かつては
「世界一美しいスタバ」

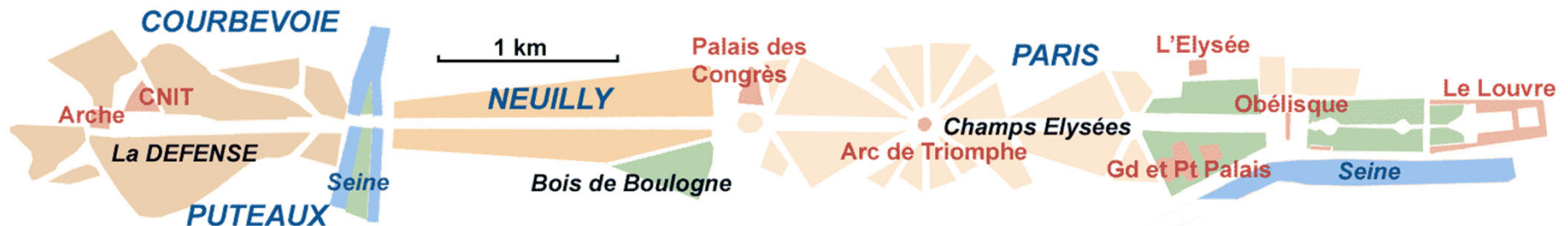


3. 国内外の再開発・再生事例

(3) 新歴史軸の形成 (8km) ～パリ～

ラ・デファンス新凱旋門～凱旋門～シャンゼリゼ～ルーブル宮 (博物館)

→ 歴史的背景をなぞった新たな基軸形成が街の再生の重要な役割に



出典 <https://ja.wikipedia.org/wiki>

上段：軸平面図 ファイル名：Paris Axe Historique 作者名：Pline

下段左：パブリックドメイン (Axe-historique_depuis_l'Arc_de_Triomphe,_Paris_2006.jpg)

下段中：ファイル名：Paris, Champs-Élysées 撮影者：Andrzej Barabasz (Chepry)

下段右：ファイル名：Axe-magistral 撮影者：Pline

4. 中川運河ならびに周辺地域再生構想

第1の視点：既往計画の反映

： 地元経済界からの提言／行政の再生計画

これからの中川運河のあり方 (H21.1)

(名古屋商工会議所)

【運河再生の方向性について (提言)】

<中川運河再生のコンセプト>

「風と水と緑の環境都市軸」

- ・沿線の緑化 ・プロムナード整備
- ・「運河の道」及び周辺環境整備

堀止ゾーン「港へのいざないゾーン」

中流ゾーン「運河の歴史保存ゾーン」

中川口ゾーン「運河の体験・学習ゾーン」

さらなる水質の浄化に努める
高度処理水を活用した透明度の高い水域
三川浄化につながる水循環のあり方

都市防災機能の向上

多くの市民等が参加出来る枠組み

中川運河再生計画 (H24.10)

(名古屋市・名古屋港管理組合)

【概ね20年先を見据えた再生方針】

《交流・創造》人と人、人と運河をつなぎます

《環境》水・緑・生き物に親しめる

水辺空間を形成します

《産業》モノづくりの未来を支え続けます

《防災》まちの安全・安心を支え続けます

【ゾーンごとの再生イメージ】

にぎわいゾーン

港と文化を感じる都心のオアシス

モノづくり産業ゾーン

モノづくりを支えるキャナルストリート

レクリエーションゾーン

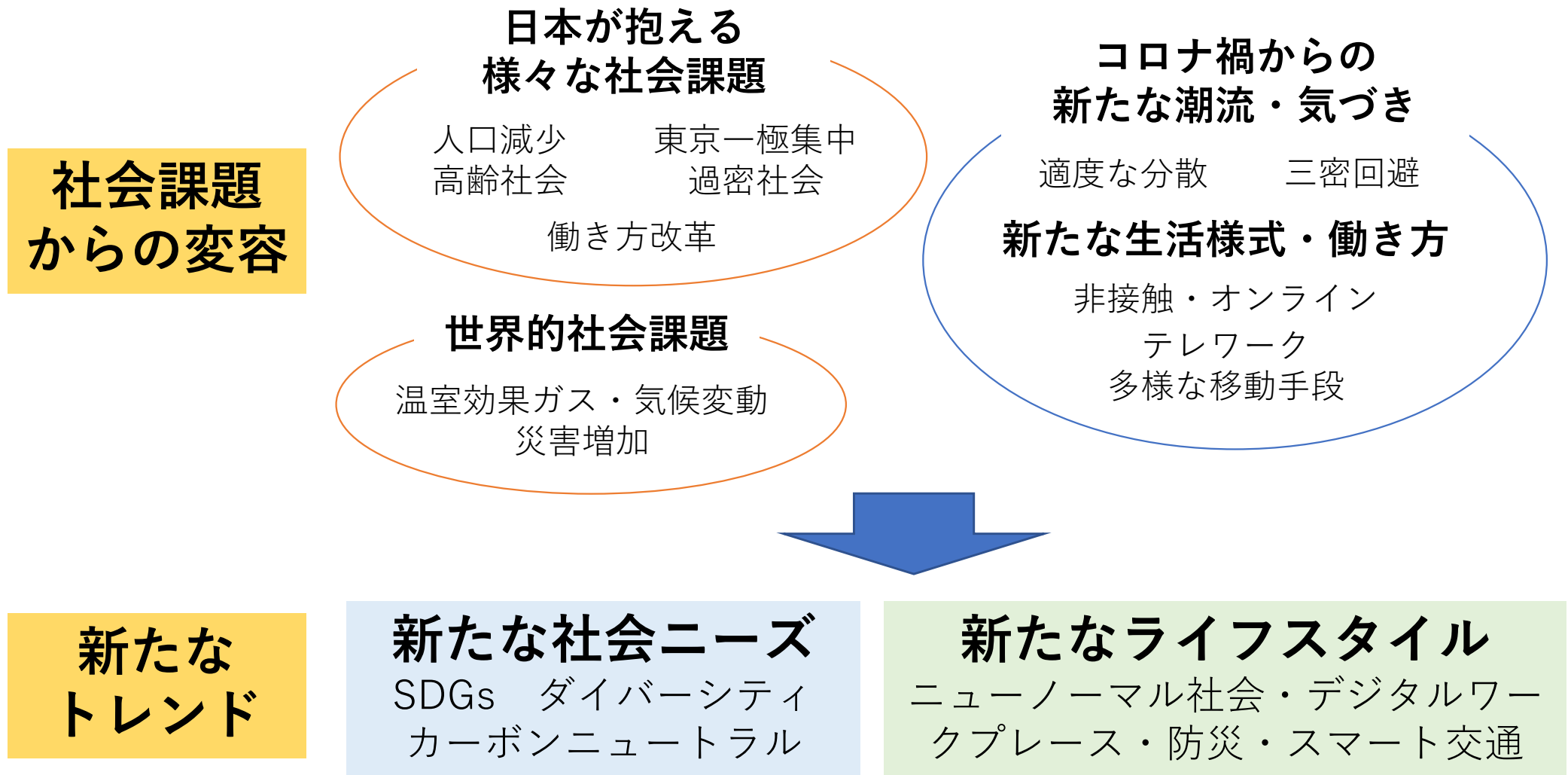
水と緑のレクリエーションフィールド

既往計画の反映 ⇒ 新たな価値創造できる再生構想の提案

4. 中川運河ならびに周辺地域再生構想

第2の視点：社会変容への対応（社会変化と多様なニーズ）

中川運河再生構想への新たなトレンドの反映



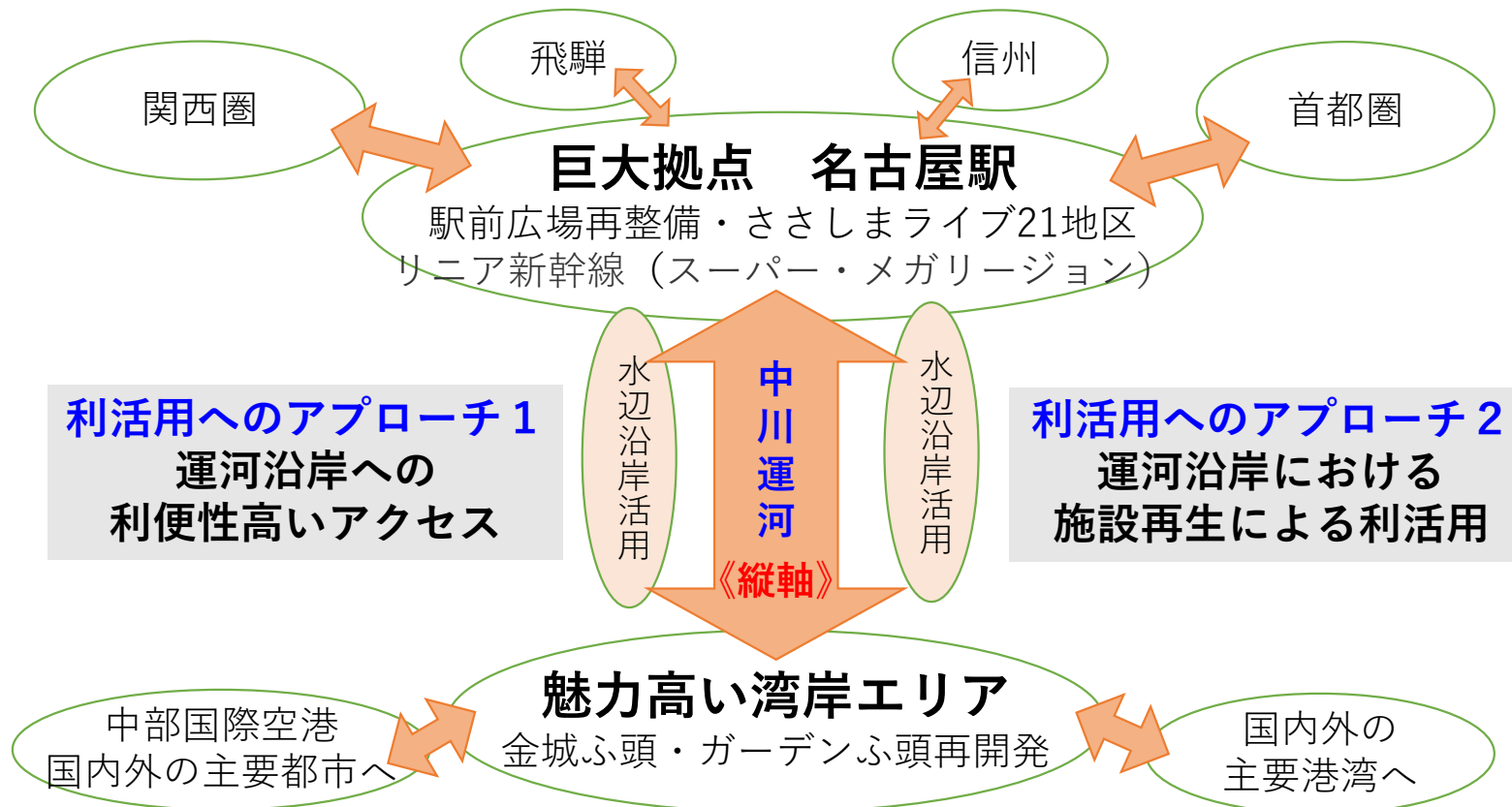
4. 中川運河ならびに周辺地域再生構想

第3の視点：地理的特性の利活用

名古屋駅～名古屋港を一直線で結ぶ縦軸空間の活用

大都市圏・自然景観域に繋がる

巨大拠点名古屋駅に隣接する地理空間の最大利用



5. 中川運河再生構想 JAPIC案

～都心を連なる中川運河の水辺空間再生から
新たな幕開けとなる南北の新基軸形成～

中川運河再生の 3本の柱



水と緑の回廊空間
～アクアグリーンベルト～
緑豊かな水辺環境を楽しむ
質感ある沿岸形成

巨大拠点 名古屋駅

新
基
軸



新旧が融合する職住遊環境
～ライフスタイルリノベーション～
運河沿岸施設のリノベーションから
文化・芸術と新しい生活スタイルが
融合した沿岸形成



地理的特性を活かした交通環境
～チャンネルモビリティネットワーク～
水上交通・鉄道を基軸とした環境に優しく
利便性に富んだ拠点を結ぶ
モビリティネットワークの整備

魅力高い湾岸エリア

第1の柱: 水と緑の回廊空間 ~アクアグリーンベルト~

緑豊かな水辺環境を楽しむ質感ある沿岸形成
(沿岸全域プロムナードの整備)



第2の柱：新旧が融合する職住遊環境～ライフスタイルリノベーション～

運河沿岸施設のリノベーションから

文化・芸術の交流を育む豊かな水辺景観の創出



第2の柱：新旧が融合する職住遊環境～ライフスタイルリノベーション～

運河沿岸施設のリノベーションから

開放感ある水辺空間を親しむ新たなライフスタイル



5. 中川運河再生構想JAPIC案

第3の柱：地理的特性を活かした交通環境

～キャナルモビリティネットワーク～

水上交通・鉄道を基軸に
環境に優しく利便性に富んだ
モビリティネットワークの整備

中川運河周辺域へのアクセス整備

- 名古屋駅とのアクセス：ささしまライブ24地区
- 横軸の整備：あおなみ線、地下鉄
- 縦軸の充実：水上交通の多様な利用（通勤・通学等）



出典：クルーズ名古屋HP

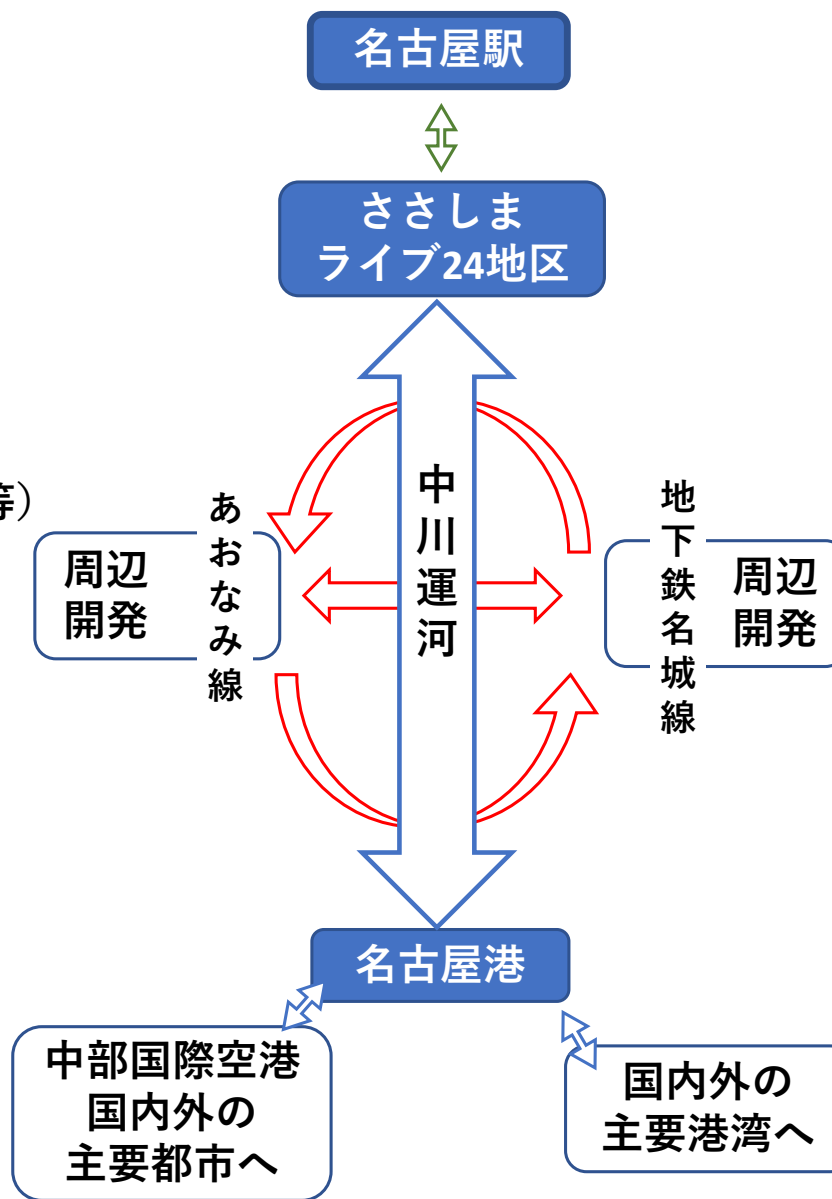
縦軸と横軸の結節点で

各種モビリティとの連携・回遊

- 超小型モビリティ（移動支援）
- グリーンスローモビリティ（運河周遊）



出典：日立HP



6. 今後の事業展開のために

【課題】 様々な誘導が行われてきているが、
整備が進まず**素晴らしい環境が活かされていない**

【今回の提言 ⇒ 地域への夢や希望を】
次世代が求める新しい時代のエリア整備に向けて
魅力的な中川運河再生を加速化させる着火剤に



6. 今後の事業展開のために

事業を進展させるための仕掛けは！

- (1) 世界運河会議(名古屋2020)を起点とした参入機運の醸成**
 - ①民産学官の連携から事業を動かすきっかけ作り
→まちづくり協議会等の設立支援（官立上げ+民間企業・地域住民の参加へ）
 - ②積極的な広報活動
→世界運河会議をきっかけとし様々な媒体を活用した広報活動
- (2) 中川運河再生事業推進に向けた都市計画上の展開**
 - ①中川運河再生事業へ参入しやすい環境づくり
→国家戦略特区等の活用
 - ②良好な水辺環境が生み出す魅力増大（水質改善・水辺整備の先行）
- (3) 規制緩和と税制優遇によるハード整備支援**
 - ①臨港地区整備での空間付加価値増大への規制・優遇
→多世代交流への支援（子育て世代補助、若手芸術家への倉庫提供等）

7. 将来構想

中川運河再生構想からスマート・チャンネルタウン形成へ

◆ カーボンニュートラルへの展開

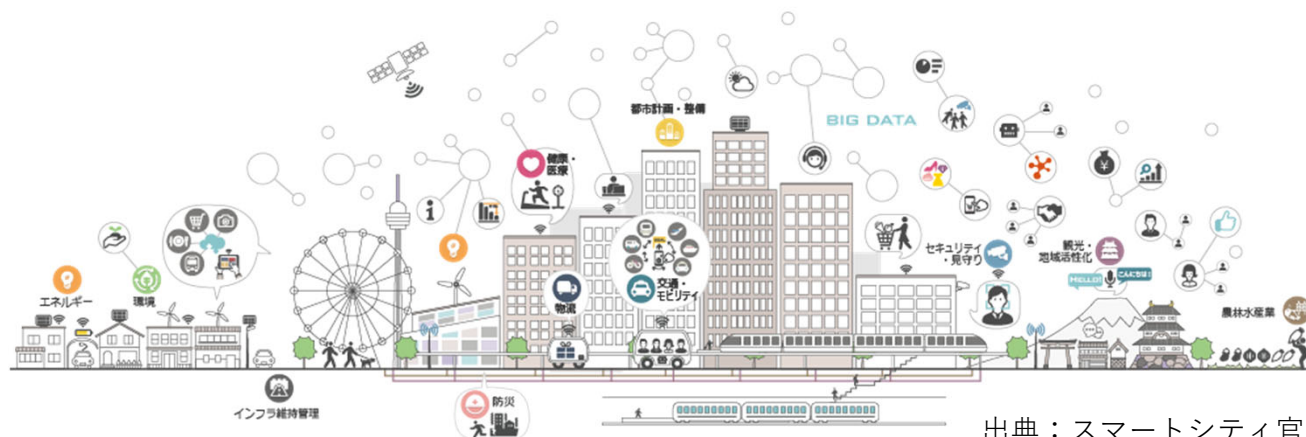
- Z E H、L C C M住宅、水上交通の電気・水素動力化 等

◆ スマートモビリティへの展開

- 自動走行システムも含めた新たなモビリティでの快適移動
- 中川運河の空中域を活用したエアモビリティ（名古屋駅～中川運河～中部国際空港を結ぶ新システム（空飛ぶ自動車）等

◆ 新たな生活スタイルへの展開

3D都市モデルによるバリアフリー等の地域・観光情報の見える化 等



出典：スマートシティ官民連携プラットフォームより
<https://www.mlit.go.jp/scpf/>

8. 世界運河会議を終えて

世界運河会議 名古屋2020

開催：2021 5/21～5/23

世界運河会議NAGOYA2020は、中川運河の再生を柱に開催され、世界の様々な運河や都市整備デザイナーが集い大きな反響を呼んだ。

JAPICはオープニングディスカッションとしてシンポジウムを開催し、世界運河会議の最終提言に私たちが発信した提言が反映された。



名誉実行委員長：水野明久

実行委員長：奥野信宏

アドバイザー：陣内秀信、トム・ヘネガン

<提言> 世界運河会議ナゴヤ 2020 名古屋の水辺への提言からの抜粋

まずJAPICから提案されたアクアグリーンベルト（水と緑の回廊空間）、ライフスタイルイノベーション（新旧が融合する職住遊環境）、チャナルモビリティネットワーク（地理的特性を活かした交通環境）はいずれも実現可能であり、賞賛に値するものであり、進めては如何かと考える。そして新型コロナのような社会的危機を乗り越える諸方策、民間整備に対する優遇策も進めなければならない。

【中川運河水辺地区再生構想】 検討者名簿

※敬称略

■チームリーダー

松田 寛志 (日本工営(株) 常務執行役員)

■サブリーダー

今井 稔 ((一社)建設コンサルタンツ協会 インフラストラクチャー研究所 研究部長)

■メンバー

(50音順)

雨宮 克也 (三井不動産(株) 開発企画部 環境創造グループ グループ長)

小野 哲男 ((株)熊谷組 執行役員 土木事業本部 副本部長)

河合 康之 ((株)三菱地所設計 エグゼクティブアドバイザー)

高橋 健太郎 ((株)熊谷組 土木事業本部 営業部 部長)

林 良嗣 (中部大学 卓越教授)

藤井 健 (首都高速道路(株) 代表取締役専務執行役員)

松尾 直規 (中部大学 名誉教授)

丸山 隆英 (前：(一財)みなと総研 専務理事 現：東亜建設工業(株) 執行役員常務)